

みんなが「地域」の主役です。

地域の活性化やさまざまな課題の解決のためには、地域の皆さんによる主体的な活動が重要となります。地域のための活動がいつの間にか、人のため、未来を担う子どもたちのために、ひいては、自分自身の生きる喜びにつながっている方もいます。特別な人ではなく、地域の皆さんが主役です。今回は、地域のために男女が互いに尊重し、共に助け合い、活動を推進している3団体を紹介します。



やいづ観光案内人の会

平成29年5月 観光案内人養成講座受講生が中心となり結成
平成30年10月 本格的にお客様への案内活動を始動
令和元年6月 Facebook開始
<https://www.facebook.com/yaizukankouannainin/>



男性23名 女性10名（高校生大学生各1名、最高齢84歳 60代70代が中心）

地元の良さを生かすために

案内をするにあたっては、地域との関わりを大切にしています。花沢の里は市民の生活の場でもあるので、初めは観光コースとすることに不安や戸惑いの声もありました。しかし、大声で騒がない、家をのぞきまさないなど住民の迷惑にならないように気を使うことで、少しずつ信頼関係を築き、今では安心してもらえるようになりました。

得意な分野で貢献

研究会では各分野の専門家による講義や会員同士でのスキルアップのためのガイドの模擬実習をしています。ガイドのスキルはもちろんのこと、写真、インターネット、資料作成など、それぞれが得意なところを生かし、互いに補い合って活動しています。自由に行きたいことをやらせてもらえる雰囲気です。



焼津がもっと好きになる

お客様に紹介するために焼津の良いところを探し、聞く立場になって工夫したり、知識を増やしたりすることが自分たちのやりがい、ひいては生きがいにつながっています。活動を通してさらに焼津が好きになりました。市内外問わず皆さんに焼津を好きになってもらいたいです。

問合せ: やいづ観光案内人の会 事務局 TEL 054-626-6266 FAX 054-626-6267

焼津市放課後子ども教室 「わくわくチャレンジ!南小キッズ☆」

平成16年から大井川南小学校で実施している放課後子ども教室、通称「わくわくチャレ」。

今回は、わくわくチャレの中で地元協力者として将棋やおセロを教える前田さんと齋藤さんにお話を伺いました。

世代を超えた遊び仲間

共働き世帯の増加や、一人っ子が多くなるなど、家庭環境が変化する中、いつの時代も子どもたちは遊ぶのが大好き。遊び相手が祖父母世代でも大丈夫です。わくわくチャレは、孫と同居しない祖父母世代が孫世代と交流できる貴重な場にもなっています。

続けているのは使命感から

わくわくチャレで10年近く将棋・オセロの指導をしている前田さんと齋藤さんは共に70代。自分の好きな将棋で地域の役に立てるならこれより続けたいと力強く語ってくれました。「わくわくチャレの様子子どもが家で楽しそうに話してくれる」と、保護者からも感謝され、それが2人の喜びにもなっています。

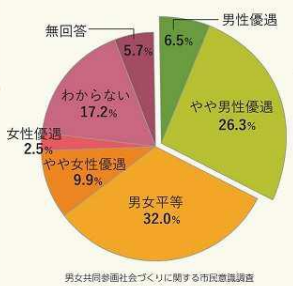
つながるコミュニケーション

わくわくチャレの始めと終わりに、子どもたちと握手やハイタッチでコミュニケーションをとる前田さんと齋藤さん。地域で会う子どもたちは、「わくわくチャレのおじさん!」「将棋のおじさん!」と声をかけてくれるそうです。高校生になっても覚えていくのがうれしいとお二人も笑顔で話してくださいます。

11~15

「わくわくチャレンジ!南小キッズ☆」の取り組みは、男女共同参画社会の実現に必要な「地域の誰もがそれぞれの能力を発揮できる環境づくり」にもなり、世代を超えて喜びを分かち合える地域社会の実現へとつながっているように感じます。

地域活動での男女の平等感について あなたはどう思いますか?



平成29年度に実施した男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査では、地域活動での男女の平等感について、「男性が優遇されている」と回答した人の割合は32.8%でした。これは「女性が優遇されている」と回答した人の割合12.4%の2.6倍を占めています。実際には、女性が地域活動の多くを担っているにも関わらず、代表者や役員など意思決定に男性が関わる割合が多いことなどが調査結果の原因と考えられます。

7,8

初めは女性防災委員それぞれの年齢や考え方が違い苦労したこともありましたが、お互いに尊重し合い、個性を生かして活動しています。上手に実技を披露できたときの達成感はまだありません。いるるなことをしてきた今では、仲間だという一体感があります。自主防災会の手の届かないきき聞を取り組めることができるよう、これからも活動を広げていきたいです。しっかりと得られた防災についての知識や技能を、より多くの人に知ってもらうように啓発活動を進め、地域に還元していきたいです。

港第14自主防災会 女性防災委員会



平成30年1月に男性中心だった自主防災会活動に女性の視点を取り入れることが重要であると考え、女性防災委員会を発足。防災に関する講座への参加、他市町への視察や研修、女性や乳児のための備蓄品の整備、防災訓練での応急手当の実演などの活動をしている。

やってみると楽しくて

高齢化が進み、熟年齢の定年延長もあり、熟年者や若者が仕事などで家を空けることが多くなりました。昼間家にいるのは、ほとんど高齢者の方ではないでしょうか。近所ではあまり出ない人も、希薄化が進んでいるように感じます。こんな時に災害が起こったらどうなるかとニュースなどで災害を目にするたびに考えさせられました。そんな時に順番でまわってきた保健委員になったことがきっかけで防災活動に関わるようになりました。声をかけられるまでいるような組織があることすら知りませんでした。いざ、やってみるととても楽しくて、それが今でも続いています。

理解者の存在が鍵

災害時には救助など力が必要になることがあります。力仕事といえば男性と考えがちですが、それぞれが得意な分野で力を発揮できるようにしなければと思っています。これからは、女性や学生たちだからこその自衛や考え方が必要です。女性防災委員として活動するには、家族の協力や外に出ることに対する理解が必要です。初めころは戸惑いもあったようですが、今では一番の理解者です。



6



子どもから大人まで

※紹介した本は焼津・大井川原簿で借りる事ができます。
※紹介：焼津市立大村中学校 館本明美 学校司書

ぼくのママはうんてん

のぞむのママは電車の運転士です。もうすぐママの誕生日なので、のぞむはサプライズのプレゼントをすることにしました。ところが、誕生日当日にハプニングが発生して…。一生懸命のぞむの姿に心がほっこりする作品です。

武器より一冊の本をください 少女マララ・ユスフザイの祈り

表紙の少女は、17歳でノーベル平和賞を受賞したマララさんです。彼女は「すべての者に教育を受ける権利がある」と声を上げ続けています。実は私たちが当たり前のように受けている「教育」は平和へとつながっているのです。

サンタのおばさん

みなさんはサンタクロースと聞いて思い描くのはどんな人ですか?この本では、なんと女性がサンタクロースに立候補するのです。女性サンタを認めるのか!他のサンタの自然する議論に、思わず考えさせられる一冊です。



今回は、積極的に地域で活躍されている港第14自治会の皆さんを取材させていただきました。取材を通じて感じたことは、自治会に参加するようになったきっかけはさまざまでも、皆さん関わりを楽しんでいることでも生き生きとされていることです。

今回ご紹介した3つの団体は、地域のために生き生きと活動しながら、それぞれの個性を生かし、お互いに尊重し合っていることが印象的でした。特に、女性ならではの気配りや目配りの重要性を感じました。